

令和3年度 中国地区私立幼稚園教育研修会

研究テーマ

遊びの中で育つ力を育む

～生活が豊かになるために～



指導助言者

ヨセフ体育教室

澄川 吉正先生

発表者

島根県吉田幼稚園

柳井 裕美

★園の紹介

本園は昭和6年に益田市最初の幼稚園として現在の地に長い歴史を築いています。市内が一望できる高台にあり、広い園庭には樹齢80～100年の椎の木や、樅の木があって、自然豊かな環境にあります。

★教育目標

「みんな仲良く、元気よく」

★教育ねらい

さまざまな表現を楽しみ、意欲的、創造的に遊びに取り組み、豊かな感性を養う。

★クラス編成

未満児（すみれぐみ）

年少児（ばらぐみ）

年中児（ももぐみ）

年長児（ふじぐみ）

1, 本主題について

日々子どもたちと過ごす中で、なぜこんな当たり前のことができないのだろうと感じるが多々ある。

なぜ日常の動作が苦手な子どもたちがふえてきたのか・・・。

ボタンかけ、蛇口をひねる、水を手ですくう、お箸の使い方などなど・・・。

日常の動作（協応動作）が苦手な子どもたちが増える一方で、

ゲーム機やスマートフォンの操作はスムーズに行っていることに違和感を感じていた。

そこで、手や指の動きに注目し、その実態や原因などを探っていきたいと考えた。

2, 方法

- ・ 今まで気になっていた子どもたちの姿を見直し
チェックリストを作成する。
- ・ 各家庭に子どもの様子、家庭環境などのアンケートを
配布する。

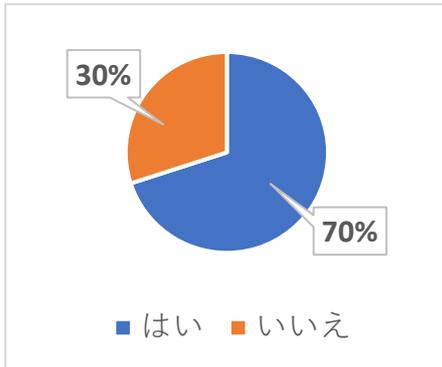
～2年間の取り組み～

- ☆ 職員間でチェックリストを作成
- ☆ アンケート配布
- ☆ アンケート結果をまとめる
- ☆ 新しいおもちゃ箱の設置
- ☆ 手先を使って遊べるように風呂敷やハンカチを用意する
- ☆ 家庭と連携して、子どもたちの生活用具を見直す
- ☆ 掃除の時間を設ける
- ☆ 近所のおじいさん、おばあさんに伝承あそびを教えてもらう時間を設ける

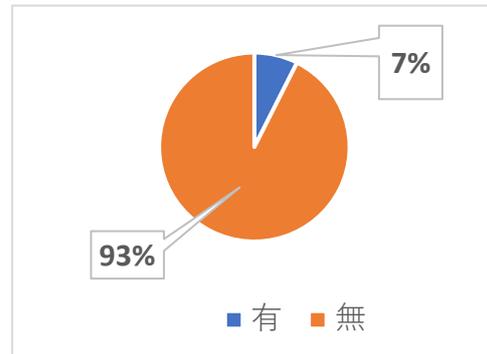
アンケート結果

子どもたちの家庭での様子、遊びを探るために
アンケートを実施、本園で25年前に行ったアンケートと比較してみた。

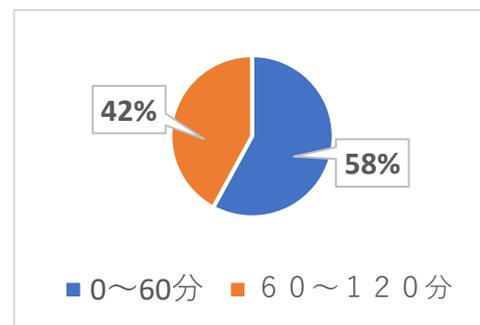
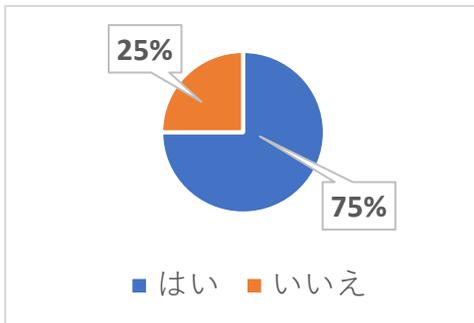
～共働きですか？～



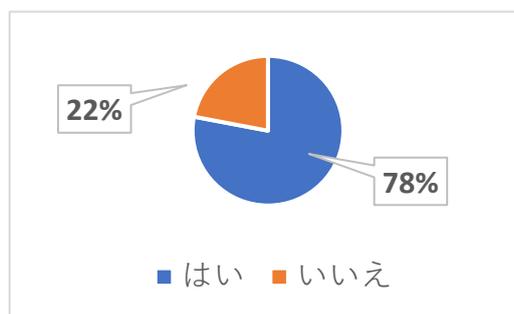
～祖父母との同居をしていますか？～



～子どもさんがゲーム、または、YouTubeをみますか？～どのくらいの時間？

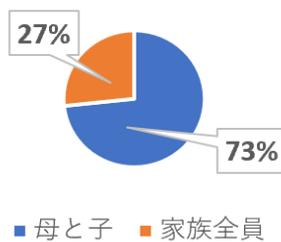


～お手伝いをさせていますか？～

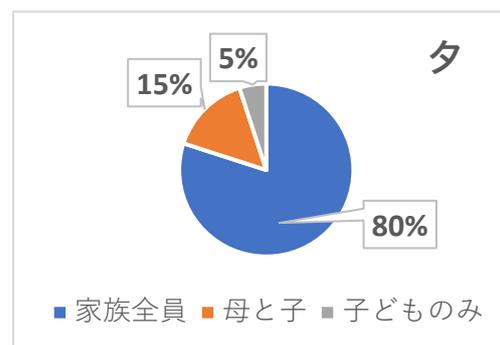


～食事は誰ととりますか？～

朝



夕



事例1 <考察>

子どもたちの様子を見てみると、指先を器用に使って遊びを発展させていく子どもと、いつも同じ遊びを繰り返し、単調な遊びをしている子どもとの差が気になった。いつも単調な遊びを繰り返している子どもに着目すると、日常生活でも不器用さを感じるが多かった。そこで、指先を使って遊ぶ昔ながらのおはじきや、お手玉、風呂敷、あやとり等をおもちゃ箱の中に入れたり、近所のお年寄りに伝承遊びを覚えてもらう機会を設けた。すると子どもたちは興味を持ち、次々と手にとっていった。特に風呂敷ハンカチは、教師の想像を越える遊びの展開がみられた。初めは「結んで～」と教師に求めてきていたが、徐々に自分たちで結べるようになって、マントにしたりスカートやエプロン、はちまき、そして忍者まきというものをあみだし、どんどん発展していった。また、風呂敷を何枚もつなぎ合わせてカゴに結び付けて連結して遊ぶ姿もみられた。自分でできるようになったことを喜び、自分から主体的に指先を使った遊びに取り組むようになった。新たな発見をし遊びを発展させるおもしろさも味わった。

事例2 <考察>

子どもたちの様子を客観的に観察し、職員間で意見を出し合いチェックリストを作った。なぜ気になる子が増えたのかを探っていく中で、家庭にアンケートの協力を求めたり、保護者と家庭環境などを話す機会を多く設けた。そこで便利な道具が増え、簡単に使える物を利用していることや、共働き家庭が増えて時間や心に余裕がなく子どもたちにお手伝いをさせることが少なくなっていた。こうした日常生活の積み重ねが手指を使う機会を減らしているのだと気づいた。そこで家庭と連携して、意識して手指を使うよう子どもたちの持ち物を見直した。(エジソン箸、フォーク→普通の箸 弁当袋→布ナフキン おにぎり→バラバラごはん)園でも両手を出して食べる、手を添えて食べる、箸でつまむことなどを繰り返し言葉がけをし、子どもたちに意識づけていきながら、保護者と職員が共通意識を持ったことで徐々に改善していった。

～まとめ～

新型コロナウイルス感染症により、幼稚園生活も一変した。新しい生活スタイルの中での園生活と同時に研究課題に取り組む難しさを痛感した2年だった。左右の手で2つの動きを同時におこなったり、目と手を同時に働かせたりする「協応動作」が苦手な子が増えたと実感していたが、その原因は1つではなく子どもたちを取り巻く現代の様々な環境が要因となっているようだ。今後も子どもたちの気持ちを大事にしながら、ちょっとした日常の動作や遊びに手指を使う機会を増やし、家庭と連携して子どもたちの生活が豊かになるよう環境構成に努めていきたい。

詳しい資料はこちらからご覧になれます。<http://s-sigaku.sakura.ne.jp/>